

天然記念物アユモドキ保全活用指針（概要版）

2010

# 天然記念物 アユモドキを守り アユモドキを活かした まちづくりをめざして



岡山市教育委員会

岡山市は、豊富な水量を持つ吉井川と旭川の二大河川が流れ、その流域には淡水魚などの「水辺のいきもの」が多く生息する豊かな環境を作り出しています。自然豊かなこれらの環境は、人間の生活とかがわりながら多様な環境を形成し維持されてきました。

しかし、開発や都市化による田園環境の変化、生活様式の変化に伴い、それらに対応できない「水辺のいきもの」が減少しています。

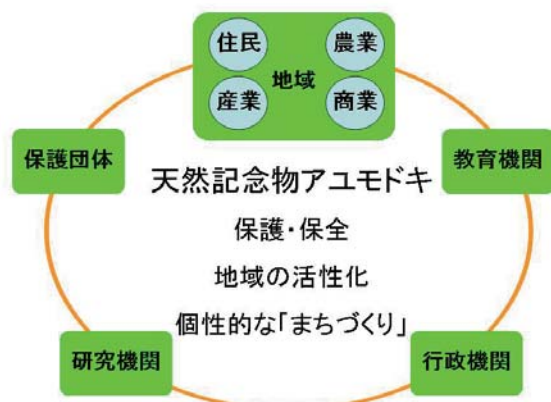
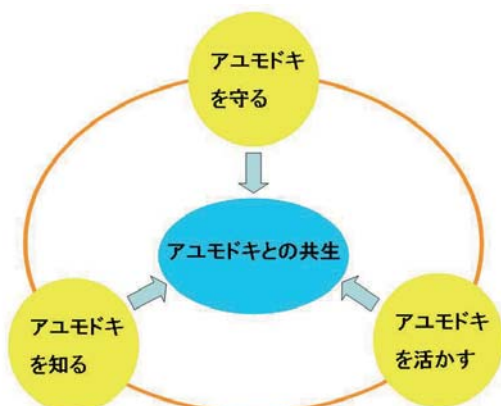
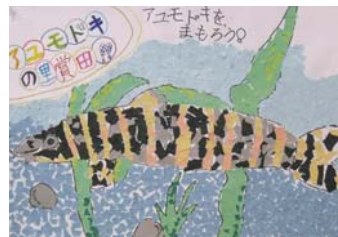
これら「水辺のいきもの」のひとつに、天然記念物に指定されているアユモドキがあります。アユモドキは、限られた水域に細々と生息しており、絶滅が危惧されている状況です。私たちは、この地域の財産であるアユモドキを、岡山市の豊かな自然のシンボルとして、次の世代に残し育んでいかなければなりません。

この指針は、国の『アユモドキ保護増殖事業計画』に即して、岡山市におけるアユモドキの保全活用を進めるため、基本的考え方を整理し、実施すべき施策の方向性を明らかにするために策定しました。

今後、この指針に基づき、地域や関係機関と連携、協議・調整を図り、計画的な保全活用施策を推進していきます。

### <基本方針>

- アユモドキを守る
- アユモドキを知り、活用する
- アユモドキとの共生



背びれと腹びれは、体の真ん中にある

尾びれの付け根に、黒くて丸い模様がある

## アユモドキの特徴

口先がとんがっている



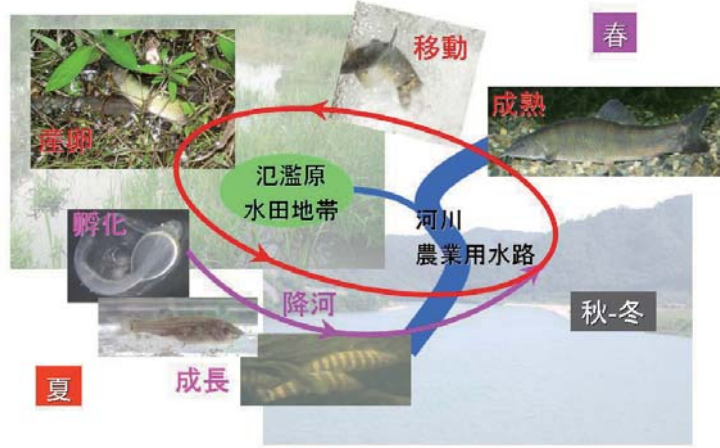
尾びれは、二またに分かれている

口のまわりに6本のひげがある

体はやや平たく、7~11本のシマもようがあり、子どものシマもようは鮮やかである

体の形やはだの色がアユに似ているので、アユモドキとよばれています。  
石垣のすきまなどにかくれるのがすきです。  
人間の「お米作り」の周期にあわせて、産卵して育っていく魚です。

### アユモドキの生活史



# アユモドキを守り アユモドキを活かした「まちづくり」

- <7つの目標>
1. 生息状況の把握および生態等に関する知見の集積
  2. 生息地における生息環境の維持および改善
  3. 個体の保護および増殖・再生
  4. 普及啓発の促進
  5. 開発行為におけるアユモドキの保全への配慮
  6. 効果的な事業の推進のための連携
  7. アユモドキを活かした「まちづくり」



## <目標>



### 1. 生息状況の把握および生態等に関する知見の集積

アユモドキの保全に関する効果的な対策を実施するため、保護団体や研究機関と連携・協力して、生息分布状況や生態等の知見の集積を図ります。



調査の様子



調査の様子

### 2. 生息地における生息環境の維持および改善

アユモドキの生息・産卵環境を維持するとともに、開発工事時等に生息に適した環境の改善に努めます。また、法の地域指定などの生息域保全地区について検討・調整を行います。さらに、生息域の田園環境を維持するために、農業関係機関と連携して農業振興の促進を図ります。



産卵場所



アユモドキが好む石垣の隙間

### 3. 個体の保護および増殖・再生

生息地の環境変化などの状況把握や緊急時の避難措置の体制整備、個体の違法な採取を防止するための監視体制整備を図ります。また、外来魚に対する対策、新規の産卵場所の創出や人工繁殖などによる増殖を進め、地域個体群の再生に努めます。



アユモドキ生息地の魚たち



人工繁殖

## 4. 普及啓発の推進

教育機関や地域での学習などで利用できる教材や情報の整備を進め、野外体験学習などで利用できる親水空間環境の整備・確保を図り、市民にとってアユモドキが身近な魚になるよう啓発活動を積極的に取り組みます。



水辺教室

## 5. 開発行為におけるアユモドキの保全への配慮

開発工事に伴う事前協議や調整を円滑に進められるように、生息分布情報、保全に配慮した工事の留意点や有効な工法などの情報の収集と周知に努めます。



水槽展示

## 6. 効果的な事業の推進のための連携

地域、保護団体、研究機関、教育や行政機関など、アユモドキ保全活用に関係する各主体との連携・協働および情報の共有化を図ります。



絵画展

## 7. アユモドキを活かした「まちづくり」

地域固有の財産であるアユモドキを、地域の活性化や個性的な「まちづくり」に活かせるような施策を進めます。



人工繁殖個体の飼育展示



シンポジウム



保護団体主催の稚魚観察会



## ＜アユモドキの生息に影響を与える要因＞



### 1. 生息地や産卵環境などの破壊や環境変化

生息地や産卵場所が、河川や水路改修などの開発による破壊、都市化による水田の減少などによって、これまでの田園環境が大きく変化し、アユモドキの生息環境が悪化しています。



アユモドキの  
保全に配慮した  
水路改修工事



都市化が進む田園環境

### 2. 堰や樋門の人為的操作による水位の変動と移動の制限

農業用水路に多くのアユモドキが生息していますが、水田耕作に合わせての水位調整や洪水災害防止のための事前水位調整により、酸欠や干上がりによる死亡が確認されています。また、堰によって産卵場所に移動できない個体もみられます。



水が干上がり  
取り残されて死んだ  
アユモドキ



堰を  
のぼろうとする  
アユモドキ

### 3. 外来種（外来魚）による影響

外来魚のオオクチバス（ブラックバス）などに、アユモドキなどの日本固有の淡水魚が食べられています。



オオクチバス（ブラックバス）



オオクチバスの  
胃の中から  
みつかった  
アユモドキ

#### 4. 密漁による過剰な採取や捕獲

鑑賞的価値から希少な淡水魚がペットショップなどで販売されており、多量の淡水魚が組織的な乱獲によって流通しているといわれています。

許可なくアユモドキを捕まえることは、  
法律で禁止されています。誤って捕まえた場合は、その場で放流してください。



警察による密漁現場の取調べ

#### 5. 水質汚濁

淡水魚が生息する河川や水路には、家庭からの生活排水、工場などの工業排水、田畑からの農業排水が流れ込みます。近年は、公共下水道の整備や浄化槽の設置、工場排水の規制、農薬の改善や使用制限などにより、水質が改善されつつありますが、微量な化学物質による生態系への影響が指摘されています。





## 天然記念物アユモドキ

アユモドキ(学名: *Parabotia curta*)は、岡山県内の河川と琵琶湖・淀川水系にだけ棲んでいる珍しい淡水魚で、体の形や肌の色などがアユに似ていることからアユモドキといわれています。

親魚の体長は約8~20cmで、体には暗褐色の横縞が7~11本あります。3対のヒゲをもつ愛嬌のある顔つきからドジョウの仲間であることがわかります。他のドジョウ類と比べると、やや扁平で体高が高く、尾ビレの後ろの縁が深く切れ込んでおり、遊泳力にすぐれています。河川や農業用水路に棲み、イトミミズ・水生昆虫などを食べ、石垣のすき間や石のかげなどに隠れるのを好みます。

太古の昔は、洪水などの河川の氾濫によって一時的に水没した陸地で産卵していたと考えられています。稲作農耕が行われるようになると、水田に水を入れる田植え時期に産卵するようになるなど、人の水田耕作の周期変化に合わせて生活してきました。

しかし、河川や田んぼの改修や都市化による田園環境の変化によって、棲むところや産卵する場所が少なくなり、絶滅が心配されています。

### <保護ランク>

天然記念物 『文化財保護法』(1977.7.2文部省告示第139号)

国内希少野生動植物種 『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)』  
(2004.7.2政令第222号 2004.7.15施行)

絶滅危惧 I A類(CR) 環境省レッドデータブック

絶滅危惧種 岡山県レッドデータブック

国際保護動物 国際自然保護連合レッドリスト

**アユモドキは、許可なく捕まえることが法律で禁止されています。  
誤って捕まえた場合は、その場で放流するようお願いいたします。**

### 【お問い合わせ先】

岡山市教育委員会文化財課 〒709-0861岡山市北区大供一丁目1番1号

電話: 086-803-1611 FAX: 086-234-4141

e-mail: bunkazaika@city.okayama.jp

写真提供: NPO 法人岡山淡水魚研究会(青雅一、阿部司、小林一郎) 絵画: アユモドキ絵画展 2008 出品作品

作成: 岡山市教育委員会文化財課(平成21年度アユモドキ保全活用事業)